小学校の事例 手稲区 手稲鉄北小学校

地域の人も足を止める壮観な光景。全校児童が一人一鉢の花を育てる。

生き物への関心や親しみを育て、自然や緑を守っていく。
大切に育てるための一人一鉢栽培を！
さらに地域と手をとり、スケールを拡大した取組に広がっている。

内容 27年間続いている 伝統の花栽培

本校では全校児童が花を育てる「一人一鉢栽培」活動を行っている。これは昭和58年度に始まり、これまで27年間続いてきている活動である。総合的な学習の時間を利用し、今年度は2年生と5年生がペチュニアを、その他の4学年はマリーゴールドを植えた。子供たち一人一人が自分の鉢に苗を植えて玄関前の花台に並べ、毎日水やりをし、時には草取りなどもしながら、花が咲いている半年間、ずっと世話をしている。

校舎前の花壇①

この「一人一鉢栽培」の活動から発展する形で始まったもうひとつの花植え活動がある。

「地域と手をとり、花を咲かせよう」をテーマに、4年前から6年生の子供たちが続けている地域への奉仕活動で、憩いの場である前田ほまれ公園から区役所前までの約500メートルにわたる街路樹マスに、地域（まちづくりセンターや町内会）の人たちと一緒に約400株のマリーゴールドを植えている。苗は6年生の子供たち（97名）自身が3月末に種を植え、育ててきたもの。街路樹マスへの直植えのほかに苗を植えたプランターも置き、道行く人の心をいやし喜ばれている。

街路樹花壇の植栽

成果 自然や緑を保ち 守ってく心を育む

一人一鉢栽培については全校児童の570鉢に加え、用務員が用意するプランターもあり、かなりの花の数になる。鉢が並ぶ様子は壮観で見ごたえがあり、地域の方が足を止めて眺めることも多い。そのため子どもの愛着心も高まっている。「生き物に親しみをもち、自分たちの力で大切に育て、広く、自然や緑を保ち、守っていく心を養う」という当校の目的や理想にかなった「環境教育」となっているといえる。

この地域は「安心歩行エリア※」であり、通学路の安全を確保するためにプランターを設置。違法駐車対策となり、児童が安全に歩行できる環境にがつくられている。

※「安心歩行エリア」とは、死傷事故が全国平均より多く、国家公安委員会と国土交通省から指定を受けた地区。歩行者と自転車利用者が安全に通行できるよう、早急な対策が必要とされている。

校舎前の花壇②

街路樹花壇の手入れ

広げよう つなげよう 環境学習の輪

実施校からメッセージ

心を配り、世話をすればするほど、成長や発見の感動も大きくなります。時にはうまく育たないこともありますが、植物の美しさとたくましさ、そしてたよりなさも含めた「命の重さ」を実感することは、子供たちにとって、とても意味のある経験です。小学生に対して、直接「温暖化」や「二酸化炭素削減」といった話にはなかなかなりませんが、本校の活動が理科や生活科などの通常の教科の枠を超え、「環境教育」にもつながる広がりのあるものだと信じています。